

文 献 紹 介

長久保光明 著：

『地図史通論』

暁印書館 1992年2月

A5判 527ページ

長久保赤水の作成した各種赤水図を主に、口絵35点のほか挿図をふんだんに含んだハードカバー、ハードケース入りの大著である。内容は書題からのイメージとはやや異なっていて、地図史の体系的な著述ではなく、副題に「地図談義と論評」とあるように、前半は地図に関する文献、地図の見方・扱い方など古代から現代にいたるまでの地図、地球儀、地誌に関する種々の事柄を話題としており、後半は赤水図に関連する内容である。

高校社会科教師を勤めるかたわら、地図ないし地図史に関心をいだき、とくに長久保赤水の調査・研究を継続してきた著者が、自らの研究成果と地図研究に関する所見を織りまぜながら編纂したものである。末尾には著者の研究軌跡を語る自分の編著書・論文のリストが掲げられていて、本書は著者のライフワークともみなされる。

著者は自序にて、本書を執筆するにいたったいきさつを語っている。それによると、本書は水戸地方の日刊紙「新いばらぎ」に昭和55年5月から同57年8月まで2年余の期間に76回にわたって連載した記事を加除訂正して成ったものだという。執筆の動機は、中学校や高校社会科の地理に関する学習参考書は多いが、地図に関する参考書は少なく、それも地形図に関するものが中心で、古地図に関する参考書はきわめて少ない。そのため、著者は関心の向くままに地図に関する情報を集め続けてきたという。そして、研究者による本格的な専門書ではなく、一般向きの平易な地図概説書を求める声のあることに勇気づけられてペンを取ったのだという。

本書は20編により成っていて、各編の構成内容は次の通りである。

- 第1編 日本地図のいわれ
- 第2編 地図の呼称の変遷
- 第3編 「図」が付く文書・表題・図名
- 第4編 地図とは何であるか

- 第5編 地図に親しむには
- 第6編 地図に関する手ごろな本
- 第7編 いろいろな地図帳と地図
- 第8編 古地図と関連の諸科学
- 第9編 測量に関する諸書の例
- 第10編 江戸時代の地誌の例
- 第11編 天文・暦学の概要
- 第12編 赤水図から伊能図へ
- 第13編 天度・地度・経度・経緯線・経緯度・測天量地などの用語解説
- 第14編 長久保赤水の二八宿による星図（『天象管闕鈔』）と関連事項
- 第15編 長久保赤水の中国地図と中国歴史地図帖
- 第16編 長久保赤水の世界図・蝦夷之図・関連図及び朝鮮輿地之図
- 第17編 長久保赤水の著作広告と誕生地と拙稿の『地図』掲載論文の英文要旨三点
- 第18編 江戸時代の天球儀と地球儀と地球図
- 第19編 江戸時代の出版と赤水図について
- 第20編 現代地図について―国土地理院の地図と民間地図その他―

著者はその姓からも推察されるように長久保赤水一門の末裔であることから、古地図のなかでもとくに赤水については調査・研究しやすい環境にあり、赤水図に関する論述が、頁数では本書全体の約半分を占めている。赤水図関係の文献については、とくに丹念な調査が及んでいて、どの本のどの頁にどのような記載があるかまで細やかに紹介されていて、本書の特徴となっている。

著者は序文のなかで「専門家や研究者からみると、独断的・非学問的・内容の不統一・説明の繁雑・その他の欠点など多々あります」と自己評価されているが、これだけの大著をまとめあげる根気と古地図によせる情熱には敬服させられる。また、地図史研究を進める過程で幾人かの著名な研究者との出会いや学問上の交流のあったことも、文中に織りまぜて紹介されており、人との出会いを大事にされる著者の生活姿勢を窺うことができる。

（川村 博忠）